

特集

フンボルトペンギンの繁殖成功に至るまで



フンボルトペンギンについて

分類：ペンギン目、ペンギン科

分布：南米ペルー、チリ沿岸部（フンボルト海流が流れる地域）

特徴：体長67～72cm体重約4kg

比較的暑さに強いいため、世界中で最も多く飼育されている種ですが、野生では絶滅の危機にあります。

飼育展示担当 鈴木昌典

大森山動物園での飼育・繁殖の経緯

大森山動物園では開園当初から約31年間飼育しています。H9年に新設された広い展示舎（ふれあいランド内）に移転するまでは、現在のビーバー舎で飼育されていました。（写真1）この施設はペンギンにとって手狭な環境だったため、繁殖に至らない理由の一つとして挙げられていました。（旧施設での成功例はS58年の人工育雛1例）しかしながら、ハード面で大きく環境が改善されたH9年以降も、成功例はH12年の人工育雛1例のみ、さらにはH10年、H14年と同時期に複数羽が死亡するなど、早急な飼育改善が求められていました。



▲写真1：H9年以前のペンギン舎（現ビーバー舎）

そんな状況の中、H15年度からペンギン担当となった私は、飼育展示担当の先輩や獣医と相談しながら、「栄養面」、「環境面」の改善をいくつか実行することに決めました。

餌の改善

初めに取り組んだのは餌として使用している冷凍アジの品質向上のため、解凍方法をこれまでの「流水解凍」から「自然解凍」に変更しました。次に、栄養面の改善として、アジの「えら」に入れる手法でビタミン剤の投与を開始、さらには他の動物園で実施されている塩、ミネラル塩をアジにまぶして与えることにしました。



▲写真2：ハンドフィーディングによる給餌

また、餌の与え方もこれまでのプールに投げ入れていた方法から、ハンドフィーディング（写真2）に変更し、1羽ずつ確認しながら全ての個体が確実に食べられるようにしました。

環境の改善

栄養改善と並行して環境改善も行いました。夏の暑くなる時期に死亡例が多いことから、少しでも陸上の暑さを和らげられればとの思いで、竹に穴をあけて作った「バンブーシャワー」（写真3）を設置しました。これには涼しさの提供だけではなく、ペンギンの糞などの汚れを取り易くするという衛生面での二次的な効果もあり、製作時の期待をはるかに上回る「名作」となりました。